

芳賀・宇都宮LRT事業のシンボルマークについて

1 基本的な考え方

(1) シンボルマークの位置づけ

芳賀・宇都宮LRTのシンボルマークは、本事業に関わる全てを結びつける存在であり、この事業を一目で訴求・周知を図ることができる「象徴」の役割を担うものとする。

(2) 使用の考え方

シンボルマークに係る著作権等の権利については、本市が代表して保有するものの、その使用については、軌道整備事業者である本市と芳賀町、軌道運送事業者である宇都宮ライトレール株式会社の3者が協定を結び、マークの位置づけを踏まえながら共同使用することとする。

[デザイン作成の考え方]

- デザイン（図柄）については、遠方からの「視認性」や混在する情報の中からの「判別性」など、一般的にマークに求められる要素を前提に、次の①「象徴性」と②「普遍性」を重視して作成

- ① トータルデザインコンセプト「雷都を未来へ」のモチーフである「雷の稲光」とシンボルカラーの「黄色」を用いた芳賀・宇都宮LRT事業を連想できる「象徴性」の高いデザイン（別紙1「トータルデザインについて」参照）
- ② 芳賀・宇都宮地域をつなぐ公共交通を表現するものとして、長期間にわたり使用できる永続性を持ち、すたれにくい「普遍性」を備えたデザイン

2 シンボルマークのデザイン（図柄）について



本デザインについては、「雷の稲光」とシンボルカラーである「黄色」の使用はもとより、LRT車両が前進する姿を連想させるマークの形状は、本事業が将来に向けて地域を牽引し「未来へ進む姿」をイメージさせ、本事業を象徴する存在として最適であると考え、シンボルマークとして決定する。

※ 「第15回LRTデザイン部会」を経た「第26回芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会」での推奨案等については別紙2参照

【参考】検討経過

- 令和2年 2月 第15回 LRTデザイン部会
- ・ マークを複数案作成し、その中からデザイン推奨案を選定
- 6月 第26回芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会(書面開催, 7/21結果公表)
- ・ LRTデザイン部会での選定結果を踏まえ、デザイン推奨案を選定

3 今後の展開イメージ等（別紙3参照）

シンボルマークの掲出に当たっては、事業等を分かりやすく印象付けるため、事業名称等を表す文字列とマークの一体的な表記を基本とする。

（展開例）

- ・ 停留場や車両など、関連する施設等にサイン表示と一体的に掲示する。
 - ・ LRT事業の情報を発信する際のアイコンとして、紙面やWEB等の様々な媒体で恒常的に使用する。
 - ・ 宇都宮ライトレール株式会社の制服に掲示し、LRT運行に係る組織・関係者であることを明示するほか、グッズ販売等に活用する。
- ※ シンボルマークの使用に当たっての基準等については、別途定める。

▼文字列との一体的な表記の例



芳賀・宇都宮LRT
Haga Utsunomiya LRT

※マーク単体での使用も可

4 今後のスケジュール

令和2年7月22日～ LRT車両デザイン・停留場サインデザイン等、各施設への掲示
ホームページ・広報紙等、各種媒体への掲出
宇都宮ライトレール株式会社の制服デザイン等への活用

トータルデザインについて

1 デザインコンセプトについて

デザインコンセプトは視覚的な統一感を持たせるための色や形を具現化し、デザインを展開していくうえでの基本的な考え方となるものであり、設定するための要素として、芳賀・宇都宮をイメージする「気候・風土」、「地形」、「産業」「歴史・文化」、「名産」等の案を基に検討を行った。



2 デザインコンセプトに求められるもの

デザインコンセプトの検討を行った結果、芳賀・宇都宮LRTのデザインコンセプトの要素として、

- 持続性を持ち廃れないものとする『普遍性』
- 他になく、宇都宮市と芳賀町の固有性を示す『独自性』
- 多様なデザインに反映できる要素を持つ『展開性』

以上の特性を有する「気候・風土」の象徴である『雷』が最も望ましいとし、「雷」の恵みと同様に、LRTが未来に向けて恵みを与えてくれる役割を担っていくものとしてデザインコンセプトを設定した。

3 トータルデザインコンセプト (デザインの基本的な考え方、基準)

雷都を未来へ

LRTによる
未来のモビリティ都市の創造

芳賀・宇都宮は、豊かな風土を礎に交通の要衝として発展してきました。
日光連山と関東平野の境界という立地と、まちを南北に流れる川や用水は、台地と低地が織りなす地形をつくり、土地を肥沃にし、物流や産業を支えてきたのです。


この風土を象徴するのが、夏の日、夕立を知らせる「雷」です。
「雷」とともに降る雨は、河川を豊かにし、「雷」は稲の実りをもたらす「恵みの象徴」として、人々は「雷」を崇拝し、「雷様」と呼ぶようになりました。古来、「雷」がこの地に恵みを与えてきたように、LRTは、人々に利便性や快適性、そして交流、地域に活力や豊かさという恵みを与える役割を担います。私たちは、このような意志と願いを込めて、雷の都、「雷都」を未来へ繋げます。

4 デザインへの展開


【考え方】
デザイン対象各々の位置づけに応じて、デザインに込めるメッセージや主張の度合いに差を設け、全体としてデザインコンセプトを利用者に明快に伝えることができる表現方法を設定する。

(デザインコンセプトの直接的表現)
シンボリックな存在となる車両、シンボルマーク、サインなど
(コンセプトを保ちつつ、地域固有の個性の取り込み)
地域に根付いて存在する停留場やトランジットセンターといった施設

【デザインモチーフ】



【具体的表現】






【抽象的表現】

5 取組別デザイン方針

車両	施設 (停留場/架線柱)	サイン	トランジットセンター	シンボルマーク	
<p>芳賀・宇都宮の顔となり、「雷都を未来へ」を具現化するデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まちの顔となる 『独自性』 ・ 地域固有の風土を感じる 『雷の光』 ・ 将来イメージを牽引する 『先進性』 	<p>沿線の歴史と風土を未来へ継承し、沿線住民に愛され、支えられるデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全性、バリアフリー、経済性、維持管理を考慮 ・ 車両を引き立てる シンプルなデザイン ・ 地域の風土を象徴する 大谷石を活用 	<p>スムーズな交通結節を促し、まちの魅力を伝え、回遊性を高めるデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3つの利用者の視点に配慮 「駅誘導系サイン」 「乗車系サイン」 「降車系サイン」 	<p>風土を活かす景観の形成し、沿線住民の誇りとなるデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 風土を活かした魅力的な空間創出 ・ 利活用可能なオープンスペース ・ 地域のシンボルとなる施設 	<p>LRTのイメージを明確に表現するデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 芳賀・宇都宮LRTの象徴 ・ 様々なアイテムに活用できる 汎用性・展開性確保 	<p>LRTが将来にわたり、住民に愛され、支えられていく魅力的な公共交通とするため、関心を持ってもらい、「我が事意識」を高める</p> <p>住民参加</p> <p>【住民参加取組案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 車両デザイン、愛称 ・ 停留場個性化 ・ ドネーション など
 <p>【ストラスプール】 【マルセイユ】</p>	 <p>【富山ライトレール】</p>	 <p>【新潟BRT】</p>	 <p>【牛久眼前】</p>	 <p>【新潟BRT】</p>	

芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会におけるシンボルマークデザイン推奨案

LRTデザイン部会、芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会において、「象徴性」と「普遍性」が感じられるモチーフをベースに、「雷都を未来へ」のデザインモチーフである「雷の稲光」との整合を図りながら、シンボルカラーである「黄色」を中心に使用して作成した3案から「A案」が推奨案とされた。

デザイン（案）	作成の考え方	芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会における評価
A 案 	<p>○「雷都を未来へ」の考え方を具現化したデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> 芳賀・宇都宮地域をつなぐ東西基幹公共交通としてLRTが市民・町民、幅広い利用者から未永く愛されるものとなるよう、この事業のデザインの要である「雷都を未来へ」そのものをモチーフに、その考え方である、まちの顔となる「独自性」や地域固有の風土を感じる「雷の光」、将来イメージを牽引する「先進性」を具現化した図柄を作成 	<ul style="list-style-type: none"> 古来、雷が芳賀・宇都宮地域に恵みを与えてきたように、「LRTがこの地に交流や活力といった恵みをもたらす役割を担う」という、「雷都を未来へ」の考え方を直接的に表現したデザインとなっていること、さらには、同じく「雷都を未来へ」を直接的に表現した車両とも高い親和性を持つデザインであり、この事業に関わる全てのものをつなぐ上で分かりやすいことから、<u>市民・町民へのスムーズな浸透も期待できるもの</u>と考える。
B 案 	<p>○東西方向を走る公共交通LRTをイメージしたデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> 栃木県中央地域の東西方向を拓き、宇都宮市と芳賀町をつなぐ基幹公共交通LRTが走る姿のイメージをモチーフに、「矢じり」という普遍的な記号を左右に2つ配置し、「軌道（レール）」と「雷の稲光」の形にも重なるような図柄を作成 	<ul style="list-style-type: none"> 左右に向いた矢じりにより、LRTが路面電車であることや市・町の東西を走ることを直感的に表現するとともに、「ヒト・モノ・情報の移動」や「交流の活性化」という導入効果を表すことで、<u>特にこの事業に知見を有する人に対して、「将来のまちの姿」を強く訴求できるもの</u>と考える。
C 案 	<p>○トータルデザインのモチーフである「雷の稲光」を強調したデザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> 芳賀・宇都宮地域を気候や風土を象徴するものであり、誰もがイメージしやすい「雷の稲光」の形状をモチーフに、シンボルカラーの「黄色」の色彩パターンを工夫して立体感を持たせて、その存在感をさらに強調した図柄を作成 	<ul style="list-style-type: none"> この地域の普遍的な事象として「雷都を未来へ」の着想の基となり、デザインモチーフにも位置づけられた「雷の稲光」をさらに強調した図柄は、この事業に関わるデザインとして直接的で理解しやすいものであるが、広く一般的な形状は他に類似するデザインも多く、<u>「芳賀・宇都宮LRT事業の象徴」として認知を得るには一定の時間を要するもの</u>と考える。

シンボルマークの展開イメージ

停留場



相対式停留場（背面）

相対式停留場（側面）



停留場のイメージ（相対式停留場）

【備考】施設デザインの詳細な仕様は、整備を進める中で変更となる場合があります。

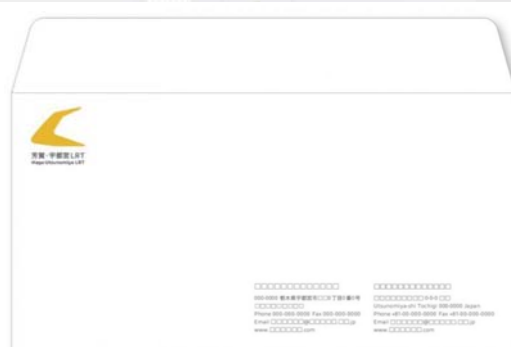
車両



広報紙・チラシ等



名刺・封筒



Web



【備考】車両や名刺・封筒等へのシンボルマーク表示及び表記はイメージであり、今後、詳細な検討を進める中で変更となる場合があります。